

那覇空港新国際線地区のエプロン整備について

那覇港湾・空港整備事務所 第二工事課長 ◎嘉数 高男
第一工事係長 ○長嶺 朝仁

1. 目 的

那覇空港におけるターミナル地域の整備については、昭和50年7月に開催された沖縄国際海洋博覧会に向けた旧国内ターミナル地区の整備、昭和62年に開催された海邦国体への対応のために、国際線旅客ターミナルビルや旧国際線旅客ターミナルビルの島内線への転用等の整備が行われた。

その後、航空需要の増加に伴い、国際線旅客ターミナルビルの老朽化に対応するため、新たに新国際線旅客ターミナルビル整備することで、航空機の駐機場を確保するための整備について報告するものである。

2. 内 容

工事の基本工程としては、既設舗装版及び構造物等を撤去の上、新たに大型航空機が駐機場するコンクリート舗装に整備する。その整備に合わせて幹線排水溝及びエプロン灯柱の基礎ブロックも整備する。

主な工種で、コンクリート舗装で、曲げ 5.0 N の品質を確保することで、コンクリートスプレッタで敷均し、インナーバイブレータで振動させながらコンクリートを締固め、コンクリートフィニッシャで平面バイブレータを振動させて平坦に仕上げ上、粗面仕上げでナイロン製のほうきを入れて、養生マットをおおい被せ、湿潤を確保を行った。

なお、散水養生を行い所定強度が確保されたを確認し完了となった。

3. 結 論

航空機の運用を確保しつつ、GSE車両通行帯を切り回しつつ、GSE置き場も確保の上、関係事業者への安全第一に優先し、整備することが完了したことは、関係事業者と密に調整会議を開催し、説明資料を周知期間を確保できたことが、有効であった。